

東京2020大会の文化プログラムについて（報告）

文化プログラム推進部会報告

Tokyo Tokyo FESTIVAL の実施総括（案）

Tokyo Tokyo FESTIVAL の実施総括（案）

概 要

- 都は、2020大会を契機に東京の芸術文化の魅力を力強く発信することを目指し、2016年のリオ大会以降、多彩な文化プログラムを展開
- 2017年からは「Tokyo Tokyo FESTIVAL（TTF）」と銘打ち、ブランディングも強化しながら実施
- 新型コロナウイルスの拡大による東京大会の1年延期を受け、TTFも多くのプログラムが延期
- コロナ禍により、2020-21年はやむを得ず中止したプログラムもあったが、制約下でも様々な工夫をしながらスペシャル13など斬新な企画も実現

【実績】 実施件数：16万件、参加者：3,900万人 ※2021年11月26日現在の速報値

(1) 人々の記憶に残る斬新で独創的なプログラムを展開

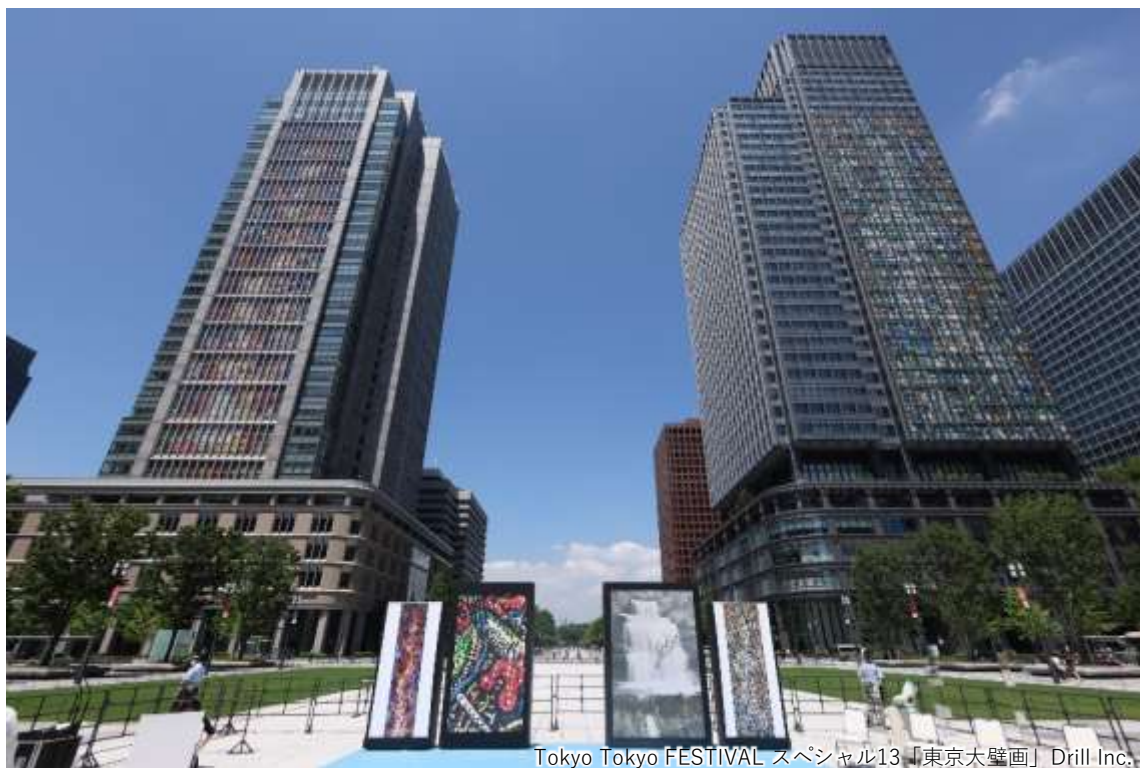
国内外で活躍するアーティストらが、ダイナミックなスケールでオリジナル作品や挑戦的な作品を展開することで注目を集めるなど、開催都市として人々の記憶に残る文化プログラムを展開・発信

Tokyo Tokyo FESTIVAL の実施総括（案）

(1) 人々の記憶に残る斬新で独創的なプログラムを展開

東京大壁画

東京の玄関口に巨大な壁画を展開



まさゆめ

実在するただ一人の巨大な「顔」が東京の空に浮かぶ



Tokyo Tokyo FESTIVAL の実施総括（案）

(1) 人々の記憶に残る斬新で独創的なプログラムを展開

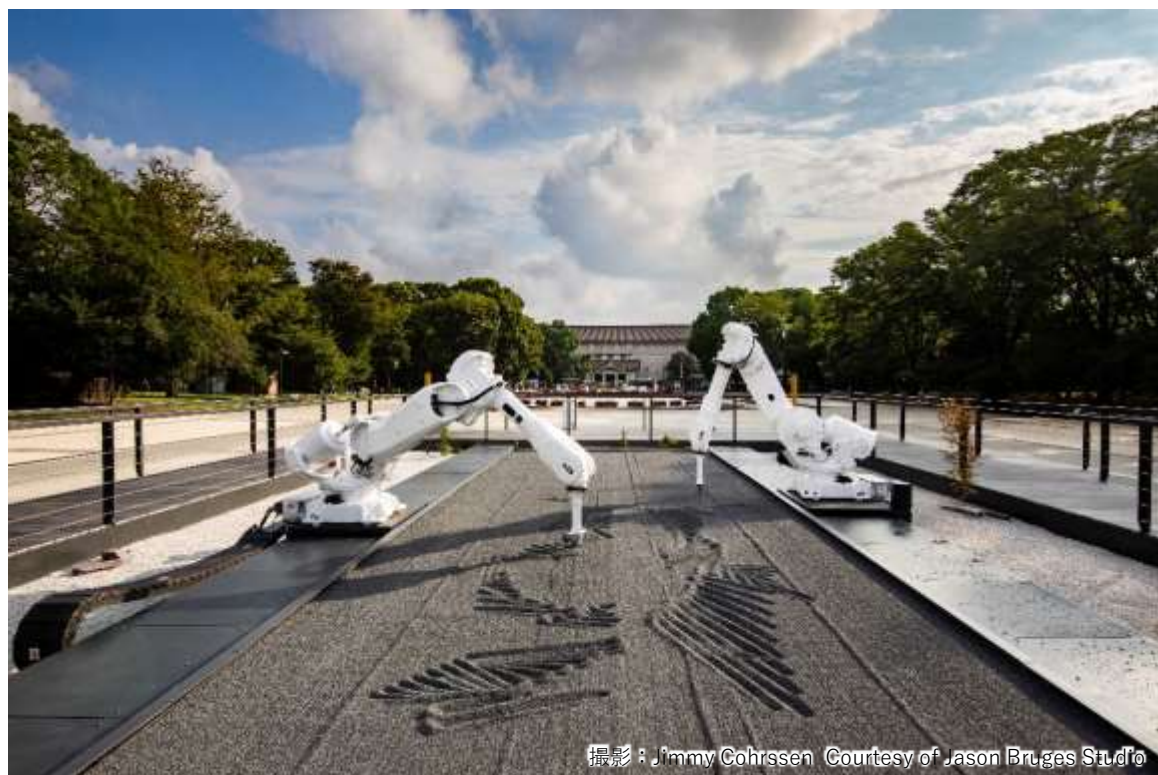
パビリオン・トウキョウ2021

世界的な日本人建築家・アーティストによるパビリオンを展示



ザ・コンスタント・ガーデナーズ

英国人アーティストによるロボット工学・日本庭園文化・スポーツが融合した大型作品を展示



(2) 誰でも身近で気軽に芸術文化を享受できる機会の提供

まちなかでのプログラムの展開や誰もが参加できる事業、オンラインの活用など芸術文化への敷居を低くする取組により、障害の有無や年齢等にかかわらず、誰もが芸術文化に触れられる機会を提供

Tokyo Tokyo FESTIVAL の実施総括（案）

(2) 誰でも身近で気軽に芸術文化を享受できる機会の提供

TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]

赤ちゃんから大人まで楽しめる
フレッシュで多彩なプログラムを展開



TURN

多様な人々の出会いによる相互作用を、
表現として生み出すアートプロジェクト



Tokyo Tokyo FESTIVAL の実施総括（案）

(2) 誰でも身近で気軽に芸術文化を享受できる機会の提供

六本木アートナイト

六本木を舞台に、多様な作品を点在させ、
非日常的な体験を創出する「アートのレストラン」



都民パフォーマーズコーナー[トパコ]

日常的に文化活動を行う都民
(アマチュア)の発表の場を創出



(3) 芸術文化に関わる人材や団体の成長に繋がる新たな挑戦の場を提供

最先端技術を活用した新たな表現への挑戦やジャンル・
地域を超えたアーティスト同士の交流により、芸術文化に
関わる人材や団体が成長する場を提供

Tokyo Tokyo FESTIVAL の実施総括（案）

(3) 芸術文化に関わる人材や団体の成長に繋がる新たな挑戦の場を提供

Light and Sound Installation “Coded Field”

歴史と伝統ある場所で最新技術を駆使した
大規模プロジェクト



東京キャラバン

多種多様なアーティストがジャンルを超えて
“文化混流”することで、新しい表現が生まれる



(4) 東京都と他団体等との連携による相乗効果の創出

自治体や国内外の芸術文化団体等と連携して文化事業を展開することで、地元の伝統文化の再発見や国際的な芸術作品の創造など、相乗効果を創出

Tokyo Tokyo FESTIVAL の実施総括（案）

(4) 東京都と他団体等との連携による相乗効果の創出

伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル～

八王子市等と協力して多摩地域の多彩な伝統文化・芸術の魅力を発信



オペラ夏の祭典 2019-20 Japan↔Tokyo↔World

世界を代表するアーティストが東京に集い、国内外の劇場と連携して実現した国際的オペラプロジェクト



(5) 困難な状況下でも知恵を絞って芸術文化の魅力を発信

コロナ禍であっても、状況に適応した工夫を凝らし、事業の魅力を損なうことなく事業を実現するとともに、オンラインを活用した新たな方法により魅力を発信。芸術文化が人々の心の支えや喜びにつながるものであることを再認識

Tokyo Tokyo FESTIVAL の実施総括（案）

(5) 困難な状況下でも知恵を絞って芸術文化の魅力を発信

Shibuya StreetDance Week



プログラムをオンライン配信で実施

キッズ伝統芸能体験



つい立てを設置し、マスクを着用して実施

文化プログラムの実施の中で不十分だった点①

2020年から2021年にかけては、新型コロナの影響に伴う緊急事態宣言等により人の移動が制限されたことから、祝祭感の創出や十分な大会気運の醸成は困難であった。

また、文化プログラムの実施を通じては、以下のような不十分だった点もあった。

- オンラインの活用など工夫を凝らして実施したが、**当初の計画どおりに実施できなかったプログラム**もあり、十分な参加の機会を提供できない面もあった。
- 多くの人に来場を促すような積極的な広報を控えたことから、**プログラムを間近で、直に見たいという期待に十分応えられなかった。**
- 東京の芸術文化を体験できるプログラムについて、海外からの観光客が来日できず、一部の実施に止まったことから、予定していた**多くの方に東京の芸術文化に触れてもらうことができなかった。**
- 訪日観光客を迎えることができない中、オンラインやSNSを活用した海外広報を展開したが、**海外からの大きな反響の手応えを感じるまでには至らなかった。**

文化プログラムの実施の中で不十分だった点②

- 都立文化施設のバリアフリー化や、各事業におけるソフト面でのサポートの充実など準備を進めてきたが、**一部、障害のある方にはアクセスが難しいイベント等もあった**。また、来場を促すための呼びかけを控えたこともあり、関係団体や特別支援学校などを巻き込んだ**拡がりのある効果に繋がれなかった**。
- **外国人等にも東京の芸術文化を楽しんでもらうため**、多言語対応やピクトグラムを取り入れた施設の案内表示等の対応を行ってきたが、**訪日観光客が少なかったため、その効果検証ができなかった**。
- **復興五輪を掲げる東京2020大会**の主旨に則って、東北の方々と連携し交流しながら事業を展開してきた。集大成となる**2021年は**、緊急事態宣言による人流抑制のため、**直接交流**することが叶わなかった。

不十分だった点を踏まえた今後の対応

不十分だった点を踏まえ、引き続き以下の視点をもって取り組んでいくことが重要

1. 選択肢を増やす

リアルの拡充のみならずオンラインの良さも活用し、芸術文化に触れることのできる選択肢を増やすことで、芸術文化に親しんでもらう機会を幅広く提供

2. 様々な方法で継続的な広報を展開する

オンラインやSNS、海外発信に強い関係機関・団体等との連携など、様々な方法で、事後広報も含めて継続的に東京の芸術文化の魅力を発信

3. アクセシビリティを強化する

障害のある人や外国人等が文化施設を快適に利用できる取組を継続するとともに、技術の活用も含め様々なサポートの充実や福祉施設など関係団体への積極的な呼びかけ等も行い、より多くの、多様な人々が芸術文化に参加できる環境を創出

Tokyo Tokyo FESTIVAL のレガシー (案)

Tokyo Tokyo FESTIVAL のレガシー（案）

- ◆ 多くの人々が鑑賞・参加できる事業をまちなかを含め都内各地で多数実施し、**誰もが芸術文化に気軽に触れられるようになってきた**。また、オンラインやSNSの活用などにより**芸術文化の楽しみ方も増えた**ことから、**より多くの人々が芸術文化に親しむことができる環境**が整い始めた。
- ◆ 芸術文化の多様性や包摂性を活かした事業や施設のバリアフリー化に積極的に取り組み、**多様な価値や一人ひとりの個性を認め合える共生社会に向けて着実に歩を進めた**。
- ◆ 新しい技術・表現方法へ挑戦する機会となり、**アーティストの創作意欲・経験値の向上**に繋がっている。
- ◆ **国内はもとより、海外も含めた文化団体等との強固なネットワーク**が構築されつつある。
- ◆ 芸術文化は人々の心を豊かにする力があり、コロナ禍でも文化の灯を絶やさず事業を実施したことで、**芸術文化に対する人々の理解が一層促進**された。